

卒業時に求められる「実践力」 ー精神保健福祉援助実習に求めるもの 実習指導者からー

キーワード：ソーシャルワーク、福祉専門職、専門価値、スーパービジョン

○池乗 桂¹⁾、花澤 佳代²⁾、木下 英奈³⁾、田澤 亜希子⁴⁾
角田の里¹⁾ 新潟青陵大学²⁾ 耕房“光”³⁾ ぐみの郷⁴⁾

I 目的

精神保健医療福祉施策を取り巻く環境は大きく変化し、精神保健福祉士に求められる社会的役割も変化している。「実践力の高い精神保健福祉士」を養成する観点からも新カリキュラムが導入され、今年度初めての実習がスタートとなる。

そこで、卒業時に求められる「実践力」ー力（知識や技術等）を明らかにするために、精神保健福祉援助実習で求めるものは何かを具体的にし、どのような観点を持ち実習が進められているかを明確にする必要があると考えた。

専門職としての知識・技術・価値を持ち、より実践的に学習が進められるように、実習を受け入れている機関ではどのような実習が行われているか、実習指導者を対象としたインタビューを実施し、求められる「実践力」とは何かを明らかにし課題を整理する。

II 方法

養成校における精神保健福祉援助実習を受け入れている3名の実習指導者を対象とし、グループインタビューを行った。調査は平成26年9月であり、インタビューの時間は2時間程度である。

インタビューは日本社会福祉士養成校協会北海道ブロック作成実習前評価システム「実習コンピテンス・アセスメント」¹⁾（2013[平成25年度版]）を用い、実習生が事前学習で習得しているべきものは何か、学習が実習に活かされているか、分析・検討する。

倫理的配慮としては、研究テーマに賛同していただいた上で、インタビュー調査についての説明と研究目的以外には使用しないこと、回答の有無で不利益にならないこと、個人が特定されないことを口頭で説明し承諾を得た。

III 結果

1. 実習の事前学習に求めるもの

- ・態度（姿勢）ー礼儀正しい挨拶、常識的な日常会話、自分自身の考え方の癖や表情を知っている、意欲的な実習態度、考えや思いを言葉で表現する力。
- ・知識ー法制度、疾病や薬・障害に関する事、生活と支援に関する事など基礎的なもの。
- ・技術ー現時点で得た知識を具体的にイメージし、活用する力（グループワークやケース検討などで身

に付ける）、問われることで考える力を養い耐性を付ける。

・価値ー利用者主体とは何を大事にするのか具体化し、その価値がどう実践と結びついているのか検討する事。

2. 上記の力があるとどのような実習が行えるか

・現場で具体的に考えながら事例を検討し、スーパーバイズすることが出来る。

3. 担当教員に求めるフォローは何か

・個々の実習生の学習状況の把握、実習巡回時の目的や方向性の再確認、実習後の振り返り など

4. 卒業時同僚に迎えたい人はどのような人か

・一緒に考えることが出来る人、利用者主体の援助を考え実践するには何が必要か考えられる人。

IV 考察

インタビュー結果から、「実践力」を高めるためには「考える力」が求められていることが分かった。精神保健福祉士の養成課程においては、精神障害者の人権を尊重し、利用者の立場に立って役割を適切に果たすことができる知識及び技術が身に付けられるようにすることが求められている。実習生が学んできた知識（机上の援助論等）と、現場で学んだ技術と価値と、実習指導者、教育機関が行うスーパーバイズがそれぞれ機能したとき、「人育て」につながるものと考ええる。

V 結論

「利用者主体」の援助を実践したい、という思いを持ち現場に入る卒業生のためにも、「考える力」を育て積み重ねることで「実践力の高い精神保健福祉士」を養成することが出来る考える。精神保健福祉援助実習における到達点を三者で確認するとともに、それぞれの共通認識を図り、信頼関係とシステム作りが出来れば更に良い実習になりうるであろう。

【参考文献】池田雅子. 社会福祉実習教育における学生の自己コンピテンス・アセスメントの活用について 2005 北星論集（社）第42号

注1) 日本社会福祉士養成校協会北海道ブロックが中心となり、作成された事前評価システム。本アセスメントは実習生が実習前に整え、備えなければならない準備体制を示すものである。